

天文氣象 教材の重視

東亞天文協會 藤原吉衛
理科教育同好會

ニツポンの國威が外に宣揚せられるにつれ、内容の進歩改善が躍進的に一大飛躍をなしたるは自他共に許す新興日本のなまなましい現實の姿である。

今や津々浦々に至るまで普く天文・氣象に興味を持ち、年々歳々アマチュア1の増加と、望遠鏡の据附が實現せられるのは痛快でたまらないと同時に、我が帝國理科教育に於ても天文氣象教材の漸く重視せられたるは私の欣快とする所である。而も帝國初等理科教育は歐米にその比類もなき程の整然たる秩序を以つて堅實なる發展の一路を辿つてゐる。今や初等教育界では、昭和日本にふさはしき新教科書編纂の氣に燃えてゐる。理科書も數年を出ずして新しき姿で見ることであらう。先年吾々は文部省に對して、天文・氣象教材の一層重視せられんことを具申したのである。其の根據を求むるに理科は通常の天然物及自然の現象に關する知識の一斑を得しめ其の相互及人生に對する關係の大要を理解せしめ兼て觀察を精密にし自然の神祕にふれ自然を愛するの心を養ふ教科であるの故なり。

低學年の理科即ち尋三以下の理科、理科以前の理科は自然科の名に於て、讀方教科を中心に兒童科學心の萌芽を伸ばす様に指導してゐる。此の意味に於て、彼の視野を通し、新舊讀方書の比較考察の一端を申上げたい。

舊教科書	卷一	p. 20	雨が止んで涼しい風の吹くこと
	„	p. 40—p. 41	一番星・二番星・三番星の文
	卷二	p. 16—p. 17	七. ユフヤケ
	„	p. 18—p. 19	八. 月
	„	p. 30—p. 33	十三. オ正月
	„	p. 37—p. 38	十五. ユキ
新教科書	卷一	p. 6	オヒサマ、アカイ、アサヒガアカイ。
	„	p. 15	デタデタツキガ、マルイマルイ、マンマルイ、
	„	p. 30—p. 31	シヤボン玉中の一節
	„	p. 42—p. 43	ユフダチ。

- 卷一 p. 46—p. 47 ーバンボシミツケタ……………
- 卷二 p. 4—p. 5 オ月サマ.
- ,, p. 7—p. 14 アシタハエンソク.
- ,, p. 46—p. 60 ネズミノヨメイリ.
- ,, p. 60—p. 61 オ正月.
- ,, p. 77—p. 81 ユキ.
- ,, p. 81—p. 83 雪ヨフレフレ.

以上は尋一教材のみであるが、題目に於て約二倍、頁數に於て約三倍の増加をなしてゐることは當局の大奮發であり、驚くの他はない。又教育上此の方面が重視せられたことが充分理解出来る。尙ほ其の内容に於て、太陽の赤いこと、月の眞丸いこと、雲から雨が降ること、雨の前後には風の吹くこと、星を數へたり、其の位置を知つたり、日没後星の輝くこと……………極めて豊富となり、太陽を讃えて世界中で一番えらい人としたり、帝國國旗が太陽をかたどつたこと等……………實に新心理學に立脚した取扱ひがせられてゐる。

スライファ博士の名譽

米國ロイエル天文臺長 V. M. Slipher 氏は去一月26日、パンフィク天文學會からブルース記念賞を授與された。——このブルース賞といふのは1897年にニウヨーク市の C. W. Bruce 嬢の特志寄附金によつて設けられた制度で、毎年一回天文學上の功績者一人を撰んで與へられるもので、今回は其の第30回賞である。

スライファ氏は1901年米國インデヤナ大學を卒業し、ロイエル天文臺で故ロイエル氏の助手として働き、ロイエルの死後、臺長となつた人で、今まで、主として天體のスペクトル研究を行ひ、申にも、金星や天王星の自轉速度の決定、木星と土星との大氣中にメタンやアムモニヤ・ガスの發見、プレヤデスを包む暗黒ガスの發見、渦巻き星霧の視線速度の決定等は輝やかしい功績である。スライファ氏は去1933年には英國 R. A. S. 學會からも名譽ある賞牌を贈られた人である。〔M. N. 93, 657; ASP 275〕